

# 熊本 県大COC通信

熊本県立大学  
COC推進室

## もやいすと(防災)ジュニアの発表会を開催

本学独自の地域リーダー育成プログラムである「もやいすと育成プログラム」。「もやいすと(地域)ジュニア育成」「もやいすとシニア育成」に続いて、「もやいすと(防災)ジュニア育成」の授業が12月の発表会を以て終了しました。

「もやいすと(防災)ジュニア育成」では、5月にオンラインセッション、7月からの授業では12月開催の発表会に向けたグループ学習が行われました。全学部で構成されたグループから、それぞれグループのリーダーが選出され、発表会までの約4ヶ月間リーダーを中心とした学習活動が行われました。また、学習効果を高めるため、各授業の終わりはグループでのリフレクション(振り返り作業)を徹底しました。

各講義では外部講師を招聘し、多様な角度から防災に関して学ぶことが出来ました。

「防災・減災の意義」の回では、阪神淡路大震災を経験した講師から防災や減災に関する基本的な知識を学び、震災からその復興までの様子が紹介されました。

「気象情報の活用と南海トラフ」の回では、地震や津波に関する基礎知識や発生のメカニズム、そして気象情報を適切に理解し活用することの重要性を学びました。



明石教授の講義では、震災前・震災時・震災後に起きる様々な事例の詳しい説明がありました。

### 【各講義のテーマと講師】

**9/28(月)テーマ:防災・減災の意義**

熊本県立大学総合管理学部  
教授 明石照久氏

**10/5(月)テーマ:気象情報の活用と南海トラフ**

熊本地方気象台  
気象情報官 西辻和也氏  
熊本地方気象台

地震津波防災官 下川雅章氏

**10/12(月)テーマ:災害と情報弱者**

熊本市国際交流振興事業団  
事務局長 八木浩光氏

**10/19(月)テーマ:災害とボランティア**

熊本市社会福祉協議会  
ボランティアセンター長 米森裕一氏

**10/26(月)テーマ:震災復興と地域づくり**

熊本県職員  
参事・防災士 黒木誉之氏

「災害と情報弱者」の回では、外国人や障害者、子ども、高齢者等の視点で災害を考え、多様で多元的な社会で、言語や文化、考え方の違いから生まれる諸問題についての学びを深めました。

「災害とボランティア」の回では、福祉やボランティアの定義を学び、熊本で行われた災害ボランティアの事例やその課題を学びました。

「震災復興と地域づくり」の回では、東日本大震災での南三陸町の救済・支援活動を事例に、復興活動と地域づくりの関係性や、契約講(地域内相互扶助組織・制度)等の住民主体の活動が、復興の大きな力であることを学びました。

また、10月31日(土)には防災に関する体験型ワークショップを開催しました。このワークショップでは4つのプログラムが準備されました。1つ目が、避難所では何に配慮し、避難者を避難所内のどこに誘導するのかをグループで議論する避難所運営ゲーム(通称「HUG」)。2つ目が、ライフラインが止まった3日間を、ダンボール箱や空き缶を活用し乗り切るノウハウを学ぶ避難所設営。3つ目が、三角巾を用いた応急措置やAEDでの心肺蘇生の講習。そして、4つ目は本学の減災プロジェクト室が管理する資料や災害用品を活用して、12月の発表会に向け準備を進めるグループワークです。

これらのプログラムは、日本防災士会熊本県支部、熊本YMCA、日本赤十字社熊本県支部の皆様の協力のもとで実施され、250名の受講生全員が4つのプログラムを体験する濃密な一日となりました。

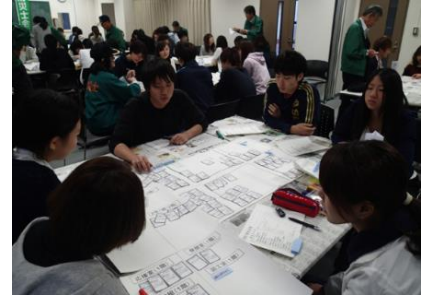
体験型ワークショップ終了後、約1ヶ月の準備期間を経て、12月12日(土)に発表会を開催しました。準備期間中は、各グループリーダーを中心に学生達が自主的に集まり、打合せを重ね、個別調査や施設訪問、ヒアリング調査、中には数百人規模のアンケート調査を実施するなど、担当教員やCOC推進室、減災プロジェクト室などのサポートを受けながら、熱心に準備を進めました。

発表会の当日は、全42グループを4教室に分け発表が行われました。各グループ5分間で、テーマと設定の理由、調査結果のまとめについてプレゼンテーションを行いました。

発表に対する評価は、ルーブリック(学習到達度を評価尺度と数的段階で評価する手法)による学生自身の相互評価によって、各教室での優秀班を1班ずつ選出する形で行われました。



三角巾での応急措置からサバイバルの知識まで。



妊婦やペット連れ、負傷者にも配慮した避難所をどのように設計していくのか議論しました。

「もやいす」と(防災)ジュニア育成」が終了して、約500名の「もやいす」とジュニア」が誕生しました。次年度は、この中から次の段階となる「もやいす」とシニア」を目指す学生が多く誕生することを期待します。

（優秀班及び各グループの発表テーマの一部を右表で紹介いたします）

さらにその後、優秀班4班による発表を経て、最優秀班が1班選出されました。本授業を担当する環境共生学部の松添教授より、発表に臨んだ全員に対する労いの言葉と、発表全体の完成度の高さについての講評が行われました。続いて、古賀学長より記念品と賞状の授与が行われ、「本授業で学んだことを基に、助け合うことや困っている人へ手を差し伸べることを忘れないで欲しい。」とのメッセージが伝えられました。

○最優秀賞

(24班)火山災害への減災について考える

○優秀賞

(2班)防災知識の共有～おもしろ防災グッズ～

(16班)情報弱者が被る災害時の弊害

(40班)ハザードマップの問題点と改善策

他に、「防災アプリ」や「非常食」の紹介、「県大が避難所になったら」、「防災につながる まちづくり」、「震災前にできる住民活動」、「災害時の情報伝達」等、全42グループが特色のある発表を行いました。



防災意識の向上策として防災運動会の提案も！



講義で学んだ情報伝達や災害ボランティアについて、さらに掘り下げて調査したグループもありました。



全プログラムが終了し、約250名のもやいすとジュニアが誕生しました。

→ 大学周辺を歩き、ハザードマップを作成した上で、気付いた課題とその改善策を発表したグループ。



防災を通して地域づくりに関して考えるグループも多くありました。